

『ふるさとみまた』創刊号～第40号：目次一覧

○創刊号：昭和58年（1983）10月20日発行

三股町梶山の北殿城についての一考察	本村 秀雄
「三股史」の序文を読んで（一提言）	久保田 秀雄
福の神弁財天社 一神仏習合の姿一	立山 重全
かくれ念仏の逸話	馬渡 虎男
お色干しとかくれ念仏	原村 近
関所（番所）における「たれんもと」について	野崎 正己
田の神サワについて	草留 久光
縄文時代石器出土	盛田 藩
切寄集落の庚申祭	茨木 次夫
オイマツ	桑畑 繁
奇談	野崎 榛
「文化財保護について思う事」	宮里 正

○第2号：昭和59年（1984）11月1日発行

江藤新平牛の峠を越す	野崎 正己
「新馬場を知らう」……一助として	久保田 秀雄
字「田の神」	桑畑 繁
椀山谷区「太郎おどり」を視て	立山 重全
小鷺巣説教所の由来	原村 近
秘め講由来について	野崎 榛
小鷺巣という集落について	盛田 藩
宮村同志会物語	黒木 正敏
戦前の農村における季節保育所のこと	園田 幸吉
勝岡青年会について	草留 久光
櫟田の起りとその頃の住まい	馬渡 虎男
一本杉に想う	山元 甚平
三股由来記	本村 秀雄

○第3号：昭和61年（1986）1月20日発行

心の糧に	鈴木 重孝
寺柱街道と寺柱関所について	野崎 正己
家の姓について	茨木 次夫
「新馬場を知らう」……一助として（2）	久保田 秀雄
三股開拓の父 三島通庸を偲ぶ	立山 重全
「三股の今日を築いた人々」に思う	坂元 忠実
春日ステーション	桑畑 繁
梶山に伝わる阿弥陀講の由来	園田 幸吉
小鷺巣の稲荷大明神社について	宮里 正
光明寺の由来	馬渡 虎男
三股町の石器時代	池田 宗男
勝岡地名考	草留 久光
地名考	福重 孝行
地名考	野崎 榛

○第4号：昭和62年（1987）2月14日発行

本町に於ける民俗年中行事の考察	郷土史研編集部
平氏落武者の墓によせて	馬渡 虎男
振武六番隊	久保田 秀雄
下新馬場青年会議事録	桑畑 繁
沖水川治水史に思う	坂元 忠実
長田棒踊り由縁	野崎 榛
東仏飯講由来記	福重 孝行
三股に今日も生きているかくれ念佛（佛飯講）	野崎 正巳
梶山に残る庶民信仰	立山 重全
三股町の石器時代	池田 宗男

○第5号（5周年記念特集号）：昭和62年（1987）11月3日発行

第一梶山城の戦とその周辺の考察	立山 重全
三股町内に在る石塔について	茨木 次夫
歴史は創造（氏神再興）	轟木 次男
山田城主長崎久兵衛 一庄内の乱一	坂元 哲郎
三股町の石器時代	池田 宗男
城下邑の伝説と地名考	馬渡 虎男
長田地名の由緒	野崎 榛
『地券』とは	久保田 秀雄
和紙造りに執念の人	高橋 安恒
第七地区下新三支部 火祈念について	指宿 義正
祖父の語らい	桑畑 繁
田の神様について	草留 久光
田の神巡りに因んで	川原 勝
満州の思い出	樺山 幸雄
南方の思い出	坂元 安雄
台湾歴史探訪	坂元 忠実
軍隊生活の思い出	園田 幸吉

○第6号：昭和63年（1988）11月3日発行

「三股回顧録」	谷口 衡
南九州の石器時代	池田 宗男
勝岡の古代	草留 久光
「旧三股町史」の疑問点	久保田 秀雄
走持の大明神について	馬渡 虎男
調練場	坂元 安雄
郷校	桑畑 繁
消える「ふるさと」の庶民信仰 一梶山に在った地蔵講一	立山 重全
宮村郷土史の発刊を終えて	黒木 正敏
方言と地名について	原村 近
冷や汁	野崎 正巳
縄綯講	園田 幸吉
赤鞆段助物語（民話）	轟木 次男

強制シベリア抑留記	坂元 哲郎
私の体験 太平洋戦争と奇跡の遭遇	盛田 藩
長崎における被爆の記録	中原 信夫
鎌倉の歴史探訪	坂元 忠実
父の日記	宮里 正
落雷	桑畑 愿
拓本のとり方	茨木 次夫

○第7号：平成元年（1989）11月3日発行

五輪塔に秘められた平家落人の謎（三股町・寺柱）	池田 宗男
庄内の乱、前後に於ける梶山郷の動静を探る	立山 重全
政矢谷の弁財天社について	馬渡 虎男
樺山村の石高と門数について	川原 勝
隈元家に保存されている古文書より	園田 幸吉
新馬場の苗字について	指宿 義正
谷区堂領溜池の今昔	山元 甚平
笈を負いて……明治の人々	久保田 秀雄
父の郵便局長時代を偲んで	渡辺 美代子
大太鼓踊と前田厚先生との思い出	宮里 正
妻籠・馬籠の歴史探訪	坂元 忠実
鶴戸さんまいり	桑畑 繁
野辺盛重氏の便り	原村 近
忘れ去られる方言	盛田 藩
あくまき	坂元 哲郎
戦前の稲作り	茨木 次夫
台湾の思い出	坂元 安雄

○第8号：平成2年（1990）11月3日発行

三股町の古石塔 無惨!!破戒された庶民文化	池田 宗男
北郷久家小鷹原に死す	坂元 哲郎
切寄集落、地名の歴史的考察	立山 重全
三股郷麓開拓秘話	久保田 秀雄
下新馬場青年会創立について	桑畑 繁
大正三年当時の山王原地図	馬渡 虎男
新馬場の苗字（二）	指宿 義正
樺山の小地名について	川原 勝
切寄今昔	茨木 次夫
「かくれ念仏巡検」に参加して	原村 近
かくれ念仏巡検に参加して	園田 幸吉
三遷	桑畑 愿
「母を想ふ」	宮里 正
婦人会のあゆみ	渡辺 美代子
くにさきの人々と風土	坂元 忠実
冷や汁考	黒木 重人
町民歌「三股音頭」のこと	桑畑 利治
みまた新しき村思考	黒木 正敏

○第9号：平成3年（1991）12月発行

三股町の古石塔 一庶民文化のモニュメント一	池田 宗男
庭訓往来	轟木次男・児玉鉄男
郷土史こぼればなし	久保田 秀雄
桑畑一族のルーツ	桑畑 愛一
濱崎太平次の生い立ち	馬渡 虎男
三股村ができるまでの変遷	立山 重全
自然石にも精霊？	山元 甚平
新馬場吉行家の井戸考	指宿 義正
土下座	桑畑 繁
干支について	茨木 次夫
史跡を歩く	坂元 哲郎
小鷺巣のことども	原村 近
北方領土の思い出	盛田 藩
みまたの民俗芸能誌の編集を終えて	園田 幸吉

○第10号（創立10周年記念号）：平成4年（1992）11月発行

三股町を開拓した樺山氏の累系と一その武将たち一	野崎 正巳
明治初期に於ける三股の公（初等）教育の考察	立山 重全
笈を負うて（二）明治時代の女子教育	久保田 秀雄
南九州の古石塔 一馬頭観音と“ばとかん”一	池田 宗男
修験道について	馬渡 虎男
轟木棒踊り	轟木 次男
権現飛来伝説とその周辺	山元 甚平
民話「庄屋どんとぬすっど」	原村 近
初めて古石塔調査に参加するの記	西井 裕一朗
家紋	茨木 次夫
史跡を歩く（2）◇梶山城◇	坂元 哲郎
新次郎事件の真相を追って	桑畑 愛一
「農のこころ」	宮里 正
氏子札	指宿 義正
早水大明神座主 一備前房澄傳（ブゼンボウ）	桑畑 繁
思ひ出のひとこま	園木 末男
稲荷神社・早馬神社 史年表	坂元 忠実

○第11号：平成5年（1993）11月発行

豊薩戦争のことども	吉田 照治
『天正の下の字をよんでください』	川畑 健三
宝暦治水 一平時における外様いじめ一	久保田 秀雄
香道の世界	桑畑 愛一
棒おどりの原点 一陰陽道の起源について一	馬渡 虎男
民話の考察	轟木 次男
祖父の遺筆	茨木 次夫
引き揚げ前夜の思い出	山元 甚平
稲荷・早馬神社境内の巨樹	坂元 忠実

橋のべんきょう、うらばなし	西井 裕一朗
郷土史研究の視点と方法	川原 勝

○第12号：平成6年（1994）11月発行

樺山の山之神塔 - 「やまんかん」とよばれる石仏一	川原 勝
稲荷神社とお伊勢さん（付）稲荷神社・早馬神社 史年表つづき	坂元 忠実
梶山浦轟木橋異聞	西井 裕一朗
島津忠恒の性格と行状	桑畑 愛一
「植木」と言うところは	中原 信夫
ハナキレウシの怪	永吉 信夫
とんち婆さん	原村 近
前目一門松のなかったふるさとの昔をたずねて	今村 照男
史跡を歩く（3）勝岡城	坂元 哲郎
歴史の町・チェスター	茨木 次夫
羊の国ニュージーランドを旅して	馬渡 虎男
昔の母は強かった	園田 幸吉
ふるさと学習	原口 晴海
三股町文化協会の歩み	山元 六男
皇居奉仕の旅	高橋 安恒
短歌	三股歌会

○第13号：平成7年11月発行

稲荷神社参道の石燈籠	坂元 忠実
荒武文書について	馬渡 虎男
植木というところは（その二）	中原 信夫
大鷲巣首塚を尋ねる	坂元 哲郎
講演要旨「諸国廻り巡見使と寺柱街道」	佐々木 鋼洋
巡見使の休憩所「中之峠御茶屋」跡の現地踏査記	園田 幸吉
重久文書に接して	黒木 正敏
梶山浦と樺山村のこぼれ話	西井 裕一朗
日本語の起源と隼人語（その一）	桑畑 愛一
草むらの中で終戦の詔勅を聴く	茨木 次夫
学童と戦争	指宿 義正
敗戦の日	岩崎 宣雄
戦時下の青春	川原 勝
アメリカでの捕虜生活	倉岡 利盛
空爆	小牧 美智子
三股に居なかった戦中の私	坂元 忠実
郷土部隊出動す（その一）	園木 末男
五十年前の私	原村 近
埋蔵文化財講座を受講して	原口 晴海
三股町文化協会の歩み（その二）	山元 六男
短歌	三股歌会
明治維新前後における三股の人達	桑畑 三則

○第14号：平成8年11月発行

「北殿」とは誰か	馬渡 虎男
幕府巡見使の寺柱到着月日と交通手段・宿泊場所について	佐々木 鋼洋
牛之峠越えの旧道について	川原 勝
梶山大昌寺跡の仁王像	桑畑 初也
“日向之国北河内村梶山村論所”抄 ー地下公事と作り百姓ー	西井 裕一朗
薩州内場仏飯講の概要について	山元 甚平
「西南の役」をしのぶ ー別働第三旅団の梶山進撃ー	坂元 哲郎
日本語の起源と隼人語（その二）	桑畑 愛一
梶山みかん物語	茨木 次夫
三股青年学校附属植木農場小史	川上 親雄
桑畑齊二氏と岩崎安美氏のこと	岩崎 宣雄
傷跡 ーフィリピン従軍記ー	中原 不二男
郷土部隊出動す（その二）	園木 末男
台湾人同胞の思い出	園田 幸吉
鎮魂の思いを籠めて 旧都城東飛行場を歩く	今村 照男
戦時中の思い出	山田 セツ
戦中・戦後の事	指宿 義正
旅行記 ー伊豆・富士五湖めぐりー	坂元 忠実
ゴモ・ゲギユ・アブラメ	桑畑 初也
三股町文化協会の歩み（その三）	山元 六男
稲荷神社・早馬神社 史年表つづき	坂元 忠実

○第15号（創立15周年記念号）：平成9年11月発行

前目ー門松のなかったふるさとの昔をたずねて（2）	今村 照男
新場場早馬神社の再興	桑畑 初也
樺山村の門に関する史料について	川原 勝
祝吉御所について	馬渡 虎男
牛之峠国境縁絵図及び関係文書	佐々木 鋼洋
史跡を歩く ー牛之峠ー	坂元 哲郎
安田ハヤトじさまのはなし	上村 辰巳
ホタル舞い、メダカ群れるふるさとを！	永吉 信夫
終戦！我が生還の記	黒木 正敏
「大東亜戦争」と私の体験	下西 政則
椎八重・九五八高地戦没者慰霊小史	桑畑 和男
明日香村散歩	茨木 次夫
毛利元就ゆかりの地を訪ねて	山元 六男
国東半島の霊場（一）	吉田 照治
台湾の教え子達三股訪問	坂元 忠実
私の日本人観	桑畑 愛一
神話随想	原口 晴海
俳句	三股椿寿俳句会

○第16号：平成10年11月1日発行

前目－門松のなかったふるさとの昔をたずねて（3）	今村 照男
新馬場・今市の三股国民学校分散教育場	指宿 義正
溜池と水神塔－樺山の溜池はいつ頃つくられたのか－	川原 勝
古い記録に出てくる長田の斑魚	桑畑 初也
みまたの記念碑を調査して	園田 幸吉
伊地知正治と桐野利秋について	馬渡 虎男
寺柱街道と幕府巡見使	佐々木 鋼洋
隠れ念仏の「一世訴人」について	比江嶋 哲二
三股停車場の思い出	桑畑 多津子
北支の収容所で生まれた私	長瀬 伸子
懐かしき思い出－私の女工時代－	久保 スミエ
五十年も昔の食卓	小牧 照子
昭和十年天皇陛下の行幸を仰ぎて	黒木 絹
もう一つの「学徒出陣」	山元 六男
砲兵二等兵	茨木 次夫
終戦！我が生還の記（2）	黒木 正敏
南九州は隼人の領域	原口 晴海
国東半島の霊場（2）	吉田 照治
日本人の宗教観	桑畑 愛一
台南師範学校同窓会	坂元 忠実
北海道オホーツクの旅	永吉 信夫
俳句	三股椿寿俳句会

○第17号：平成11年11月1日発行

前目－門松のなかったふるさとの昔をたずねて（4）	今村 照男
都城地頭 三島通庸－先祖に由縁の人－	坂元 哲郎
明治前期における行政区域みまたの変遷	川原 勝
「牛之峠」物語Ⅰ	比江嶋 哲二
薩摩の廃佛毀釋のこと	園田 幸吉
縄文時代の物資の流通－宮崎県内における石器の石材を中心に－	栗畑 光博
古い記録の細目川	桑畑 初也
樺山地区の三股国民学校分散教育場	指宿 義正
陸軍憲兵少尉 桑畑次男の最期	桑畑 浩三
終戦！我が生還の記（3）	黒木 正敏
続・砲兵二等兵	茨木 次夫
むかしの医療－一人の体験より－	山元 六男
山王原下ん通りの紙漉き	大田 六男
沖水川ガメの話（1）	高橋 義忠
平成七年第八回皇居奉仕団に参加して	黒木 絹
私を育ててくれた三つの環境 その一・台湾	桑畑 愛一
海に面した台地から	原口 晴海
明石海峡大橋と鳴門を訪ねて	坂元 忠実

○第18号：平成12年11月1日発行

梶山城－貴重な山城の遺構	園田 幸吉
前目－門松のなかったふるさとの昔をたずねて（5）	今村 照男
牛之峠物語 II	比江嶋 哲二
海戸用水路の取り入れ口	茨木 次夫
沖水川三号・四号床固の倒壊－昭和二九年台風一二号の大雨－	桑畑 次也
ケンチョウバシ－矢ヶ淵の板橋はいつ架けられたか－	桑畑 初也
沖水川ガメの話（2）	高橋 義忠
ニャンニャンホ	大田 六男
「戦争中の思い出」－昭和二十年学校勤務日記から－	黒木 絹
熱河離宮のある承德－一兵士の記録－	坂元 哲郎
唐人墓が語る歴史	原口 晴海
国東半島の霊場（3）	吉田 照治
日本の古里 椎葉（その一）	黒木 正敏
日本人のアイデンティティ	桑畑 愛一
書風はくり返す	山元 六男
稲荷・早馬神社責任役員十年の軌跡	坂元 忠実
俳句雑詠	三股椿寿俳句会

○第19号：平成13年11月1日発行

埋もれていた碑－御崎神社の西南の役出兵奉獻碑－	園田 幸吉
続・切寄今昔－井戸と人の移動－	茨木 次夫
太平洋戦争末期の南九州防衛陣地遺構を訪ねて	川原 勝
前目－門松のなかったふるさとの昔をたずねて（6）	今村 照男
牛之峠物語 III	比江嶋 哲二
やっと表川内に電気の灯がついた！ －現地調査によって明らかにする通電事情－	最上川 明
沖水川流域の山腹崩壊	桑畑 次也
駒帰と一之瀬－幕府巡見使九度の通路－	桑畑 初也
沖水川ガメの話（3）	高橋 義忠
回想「中千島駐留時代」	坂元 哲郎
日本の古里（その二）	黒木 正敏
私を育ててくれた三つの環境（その三）比島	桑畑 愛一
無言の証人・巨樹	原口 晴海
佐渡を訪れて	坂元 忠実

○第20号（記念増大号）：平成14年11月1日発行

講演記録『南九州の名城・梶山城』～北郷氏対伊東氏の激戦の城～	八巻 孝夫
前目－門松のなかったふるさとの昔をたずねて（7）	今村 照男
牛之峠物語 IV	比江嶋 哲二
内之木場地区の点灯と都城盆地の電気由来	最上川 明
沖水川砂防事業余話	桑畑 次也
宇都第三遺跡－発掘現場説明会資料より－	宮里 正生
歴代三股村長・町長を偲ぶために	園田 幸吉
三股の温泉	茨木 次夫
高畑の一本杉についての一考察～樹齢の推定について～	宮田 隆雄

二十三年前の出来事 ～町内で不発爆弾騒ぎ～	山元 秋夫
梶山・長田の特産品 －「庄内地理志」と「日向地誌」－	桑畑 初也
ソ連邦強制抑留回想記	坂元 哲郎
明如上人と薩摩開教（法話聴聞記）	指宿 義正
太平洋戦争の遺跡松代象山地下壕を訪ねて	川原 勝
沖水川ガメの話（４）	高橋 義忠
園路にまつわる話	岩崎 民子
日本人とアラブ人	桑畑 愛一
伊香保温泉を訪ねて	坂元 忠実
俳句	三股椿寿俳句会
「ふるさとみまた」目次集（創刊号～十九号）	研究会編集部

○第21号：平成15年11月1日発行

講演記録「パイオニア三股の歴史」	原口 泉
三枚の古い写真 －細目川ダムの建設－	最上川 明
牛之峠物語 五	比江嶋 哲二
岩崎家を語る	岩崎 民子
前目－門松のなかったふるさとの昔をたずねて（８）	今村 照男
『みまたの石造文化 続編』余録	川原 勝
近世宮崎の部落の人たち	比江嶋 哲二
日本の古里椎葉（その三）	黒木 正敏
山や川、谷になにかがいた	原口 晴海
中世の日向・日本	桑畑 愛一
沖水川のメダカ	岩崎 民子
山王原老人クラブ白寿会	坂元 忠実

○第22号：平成16年11月1日発行

石塔発見	茨木 次夫
明治後期の写真と当時の三股	最上川 明
牛之峠物語 六	比江嶋 哲二
「紀元二千六百年」記念碑に思う	川原 勝
「立岩川」のこと	大田 六男
近世宮崎の部落の人たちⅡ	比江嶋 哲二
武士道－道徳律－生活様式への過程	桑畑 愛一
「戦時下の生活を語る」座談会より	研究会編集部
仏教の歴史とお盆について	指宿 義正
隈元常規と森神垣	桑畑 三則
三股町の文化財（一）	三股町教育委員会
故郷の思い出	桑畑 利治
集落の風の中で	岩崎 民子
三股をふるさとにして	菊谷 喜代子
私の趣味	宮里 正生
折りに触れて	小林 睦男

○第23号：平成17年11月1日発行

「樅の木は残った」－三股開拓之碑	最上川 明
牛之峠物語 七	比江嶋 哲二
沖水川筋耕地整理記念碑碑文－原文と現代文訳－	桑畑 初也
日豊本線の開通と三股駅の設置	西井 裕一朗
上沖遺跡と桑畑九左衛門	桑畑 三則
『花と緑と水の町』の川を訪ねて	大田 六男
沖水川ガメの話（5）	高橋 義忠
六十年前の私の八月十五日	指宿 義正
六十年前の終戦前後の事	小林 ムツ子
わたしの八月十五日－終戦前後のこと	川原 勝
六十年前の終戦日前後の私	小林 睦男
謎の特別電報	茨木 次夫
六十年前の私の八月十五日	桑畑 新吾
紀高愛のこと	桑畑 浩三
昭和史上の二つの「IF」	桑畑 愛一
歳月は流れて	岩崎 民子
ふるさと三股へ帰る	小林 ムツ子
ミニ随筆三題	菊谷 喜代子
川柳	小林 睦男

○第24号：平成18年11月1日発行

三股三原集落の歴史	片之坂 秀俊
牛之峠物語（八）（飛松番所役人河野氏）	比江嶋 哲二
御仕置考 梶山・宮村番所内での仕置、宗門手札改め御仕置	小牧 俊一
引揚げは死線を越えて	坂元 トミ
宮村の特産品－「庄内地理志」と「日向地誌」－	桑畑 初也
三股の月待塔	川原 勝
都城陥落－市木回想録に見る西南戦争－	桑畑 浩三
長田の「鬼の足跡」－シラスの陥没地形－	桑畑 次也
中学生たちの終戦	川原 勝
日本古代史の謎	桑畑 愛一
越中さん－薩摩藩における富山売薬の活動と一向宗－	桑畑 初也
最上川 明氏のこと	大田 六男
追想－父を語る－	岩崎 民子
随想二題	菊谷 喜代子
片ノ坂登氏の遺稿集「ありし日の思い出」を読んで	大田 六男
俳句	菊谷 喜代子
日豊本線の開通と三股駅の設置 資料 I	西井 裕一朗

○第25号：平成19年11月1日発行

昭和七（一九三二）年の秋	桑畑 三則
牛之峠物語（九）（大岩田山内家文書と教育）	比江嶋 哲二
楯門について－地名「たれんくっ」由来考－	川原 勝
三島通庸の学校はどこにあったか	桑畑 初也

鹿児島神宮初午の馬踊りについて	荒武 操
私の昭和史（一）「非常時」下の小学生	川原 勝
旧制都商（都城商業学校）の思い出	川添 純安
纏足の女	桑畑 愛一
「ほとくい」～雑草あれこれ～	大田 六男
教育界の野瀬山脈	田畑 時良
着物の変遷	岩崎 民子
随想三題	菊谷 喜代子
老の歴史	指宿 義正
キジバト日記抄	大田 六男
キリスト来日説考	桑畑 愛一
短歌 うたつれづれに	岩崎 民子

○第26号：平成20年11月1日発行

牛の峠物語（十）	比江嶋 哲二
他領境目番所並びに辺路番	桑畑 三則
三股小学校の位置の変遷	桑畑 初也
私と郷土史二十六年	指宿 義正
私の昭和史（二）戦時下の「小国民」	川原 勝
三股小学校の沿革誌（1）	桑畑 初也
史跡保存と破壊	田畑 時良
開発と文化財消失	川原 勝
第一回 三股町史跡めぐり実施	三股町教育委員会
三股町史跡めぐりに参加して ー一枚の古絵図ー	小牧 俊一
「三股町史跡めぐり」に参加して	竹村 恵美
李香蘭	桑畑 愛一
「ほとくい」～雑草あれこれ～ その二	大田 六男
勤勉・怠惰考	前田 宏
永遠の別れ	菊谷 喜代子
くねんぼ	岩崎 民子
オハラ節とヤッサ節	桑畑 三則
「ときめき大学」東儀秀樹氏のこと	菊谷 喜代子
短歌 夕映え	岩崎 民子

○第27号：平成21年11月1日発行

三股郷土史研究会の経過	茨木 次夫
牛の峠物語（十一）「九州漫遊日記」抜き書き	比江嶋 哲二
三股女児小学	桑畑 初也
私の昭和史（三）戦時下の国民生活	川原 勝
同行二人 ～遍路林蔵の死～	児玉 雅治
三股小学校の沿革誌（2）	桑畑 初也
私の町であった、悲しい戦後処理	桑畑 和男
集落上空を特攻機が旋回	北畑 昌實
第二回 三股町史跡めぐり	児玉 雅治
歴史雑感	桑畑 愛一

諸県方言の行方	桑畑 三則
「子供を大事にすること」を具体的に教えてくれた今村照男さん	仮屋 睦男
古事記の森で遊ぶ	前田 宏
毒虫のこと	大田 六男
クネンボの記憶	桑畑 初也
茶摘みのころ	北畑 ちさみ
随想	菊谷 喜代子
随想	前田 宏
故郷へ	福永 邦子
諸行無常	指宿 義正
短歌 夕時雨	岩崎 民子

○第28号：平成22年11月1日発行

牛の峠物語（十二）	比江嶋 哲二
鯨のはなし	児玉 雅治
樺山村の門に関する史料について（第15号より再録）	川原 勝
三股郷麓開拓秘話（第8号より再録）	久保田 秀雄
樺山村の石高と門数について（第7号より再録）	川原 勝
新次郎事件の真相を追って（第10号より再録）	桑畑 愛一
第三回 史跡めぐり	児玉 雅治
六十五年前の記憶	立山 瑠璃
地図を見て 思い出すままに	岩崎 民子
川原勝先生と史跡保存	田畑 時良
諸県方言の行方余話	桑畑 三則
六月灯の思い出	大田 六男
地域力という未来像	前田 宏
私の人生	福永 邦子
寂滅為楽	指宿 義正
方言余話	大田 六男
サブロウとガクレドン	前田 宏
栗毛の寛太	前田 宏

○第29号：平成23年11月1日発行

新次郎謀殺の謎	桑畑 三則
牛の峠物語（十三）（中抑え・梶山在番）	比江嶋 哲二
山王原第七部（現在十一部）のむかしと今	大田 六男
薩摩かくれ念仏	桑畑 三則
幕末延岡藩内藤家文書から	児玉 雅治
郷土の大豪雨と新燃岳噴火	田畑 時良
新田開発異聞	指宿 義正
随想二題	岩崎 民子
創作童話三題	前田 宏
随想三題	菊谷 喜代子
ある男の物語	小林 健一郎
独り言	大田 六男

○第30号：平成24年11月1日発行

牛の峠物語（十四）（切寄番所、在番人）	比江嶋 哲二
庄内移りの人達	桑畑 三則
山形県令・三島通庸 ーその関係書簡を読む	児玉 雅治
霧社事件聞き書き	山田 太郎
小さな集落のはなし	山領 征男
山王原第五部（現在九支部）のむかしと今	大田 六男
新次郎事件異聞	比江嶋 哲二
三股町における悲壮な戦後処理について	桑畑 和男
朝鮮脱出考	吉川 義一
随想 クサツの葉	岩崎 民子
ふるさとみまた29号を読んで ー読者の手紙からー	編集部
明治生まれのオヤジ達	桑畑 三則
『花と緑と水の町 三股』と私	福重 晴夫
青井岳 思い出すままに	大田 六男
随想四題	菊谷 喜代子
兄宅訪問	桑畑 三行
独り言	大田 六男
短歌 夏から秋へ	岩崎 民子

○第31号：平成25年11月1日発行

開墾とカケチンシ	桑畑 三則
西南の役と明治通宝・西郷札	指宿 義正
牛の峠物語（十五）（庄内地理志、梶山番所）	比江嶋 哲二
巷談・有村次左衛門	児玉 雅治
六部どんの残酷物語	桑畑 三則
史跡巡り	三股郷土史研究会 祝吉小学校
宇宙と踊る	浦本 啓次郎
戦時中そして終戦、引揚の悲しい思い出	高橋 良子
自分史Ⅱ 旭化成時代	吉川 義一
最上川 明氏のこと（追悼文Ⅱ）	大田 六男
『EM』ありがとう	福重 晴夫
三股中学校第一回卒業生の思い出	木佐貫 文雄
夾竹桃の花咲けば	岩崎 民子
なつかしの田原	大田 六男
随想七題	菊谷 喜代子
独り言	大田 六男
短歌 折りにふれて	岩崎 民子
「ふるさとみまた二十九号」を読んで	浦本 啓次郎
「ふるさとみまた三十号」を読んで	浦本 啓次郎

○第32号：平成26年11月1日発行

都城盆地での三島通庸	桑畑 三則
牛の峠物語（十六）（庄内地理志、大鷲巢）	比江嶋 哲二
佐藤信寿「安政四年伊勢参宮道中記」	児玉 雅治

薩摩藩の念仏禁制	指宿 義正
茨木次夫氏を追悼する	比江嶋 哲二
昭和二十年～三十年頃の山田川の魚を主とした生きものたち	大田 六男
随想 教員稼業 ー三股町の教員仲間と豪傑母ちゃんー	田畑 時良
もう いくつ ねると…	福重 晴夫
随想三題	桑畑 三則
シネマ・ア・ラ・カルト	浦本 啓次郎
よみがえる記憶	岩崎 民子
随想二題	菊谷 喜代子
年を重ねて故郷近く	立山 瑠璃
独り言	大田 六男
短歌 折りにふれて	岩崎 民子
ふるさとみまた三十一号を読んで	浦本 啓次郎

○第33号：平成27年11月1日発行

三股村の成り立ち	桑畑 三則
近世三股の教育	比江嶋 哲二
海戸用水と前目溝	大田 六男
牛の峠物語（十七）（近世三股の農地）	比江嶋 哲二
西國巡礼道中日記	児玉 雅治
原発事故の想定外について	浦本 啓次郎
随筆九題	桑畑 三則
百五歳の生涯	岩崎 民子
随筆五題	菊谷 喜代子
教え子からの手紙	福重 晴夫
アーカイブス 戦時日本の記憶	浦本 啓次郎
独り言	大田 六男
短歌十首 折りにふれて	岩崎 民子
短歌十首 姉の急死 兄宅訪問	桑畑 三行
短歌十首 北の国富良野にて若かりし頃の歌	後藤田 規子
ふるさとみまた三十二号を読んで	浦本 啓次郎

○第34号：平成28年11月1日発行

ふるさとみまた第十五号「新馬場早馬神社の再興」についての考察	桑畑 三則
牛の峠物語（十八）（梶山裏の人たち）	比江嶋 哲二
廃仏毀釈と神仏分離	桑畑 三則
「教訓」について	比江嶋 哲
「寺屋敷門」（福永）	指宿 義正
馬車馬が喘いでいた坂	大田 六男
越境としての現代	浦本 啓次郎
随筆二題	福田 新一
随筆三題	桑畑 三則
おらがまち「みまた」の思い出	福重 晴夫
ふるさとみまた三十三号を読んで	栗畑 洋子
随筆十題	浦本 啓次郎

落雷	指宿 義正
随筆六題	菊谷 喜代子
独り言	大田 六男
ふるさとみまた三十三号を読んで	浦本 啓次郎
短歌 花を詠む	後藤田 規子
短歌十首	三浦 好子
短歌 折々に	菊谷 喜代子

○第35号：平成29年11月1日発行

松山家文書から見える明治時代の人々の暮らし	仮屋 睦男
「牛の峠物語」を振り返る	比江嶋 哲
鰐塚山の名の由来 ⑤	有川 龍次
諸行無常	指宿 義正
諸県方言の行方 (第27号より再録)	桑畑 三則
諸県方言の行方余話 (第28号より再録)	桑畑 三則
「牛之峠」物語 I (第17号より再録)	比江嶋 哲二
私たちの町・三股！	福重 晴夫
兄の旅立ち	桑畑 三行
生きるについての九つの章文	浦本 啓次郎
比江嶋哲二氏を追悼する 比江嶋さんが拓いた部落史を受け継ごう	仮屋 睦男
俳句を読む	浦本 啓次郎
ふるさとみまた第三十四号を読んで	浦本 啓次郎
独り言	大田 六男
短歌 白寿の姑／ふるさと風情	栗畑 洋子
短歌十首	栗畑 チヨ子
短歌 季を詠む	三浦 好子
短歌十首	小牧 照子
短歌十首	西畑 ヨシ子
短歌 樹に寄せて	後藤田 規子

○第36号：平成30年11月1日発行

狩り宿雑感	小牧 俊一
「西南役従軍碑」に寄せて	富迫 美幸
明治十七年（一八八四）の水害と水利土功会	仮屋 睦男
都城陥落 一市来回想録に見る西南戦争一 (第24号より再録)	桑畑 浩三
「がぐれ」について	比江嶋 哲
三股町史と戦後73年 「三股村長田国民学校昭和19年度の学校日誌から見えてくるもの」	黒木 広志
日曜学校	指宿 義正
三股三原集落の歴史 (第24号より再録)	片之坂 秀俊
ブータン王国の国民総幸福量について	浦本 啓次郎
「立て！飛べ！行け！」	尾屋家 則子
方言について	松崎 行夫
祖父との思いで	福田 新一
「西郷どん」のことば	大田 六男
北郷と「ん」のつく町宣言	有川 龍次

閑人閑話	浦本 啓次郎
福重晴夫氏を悼む	大田 六男
西田数男氏を偲んで	大田 六男
ふるさとみまたについて	浦本 啓次郎
短歌十首	小牧 照子
短歌五首	栗畑 光圀
短歌十首	西畑 ヨシ子
短歌五首	栗畑 洋子
短歌 哀悼の歌 桑畑浩三様に捧ぐ／一陣の風	三浦 好子
短歌十首	大脇 美由紀

○第37号：令和元年11月1日発行

戦後七十四年「三股村長田国民学校昭和十八年度の学校日誌」を見る	黒木 広志
三股の温泉（第20号より再録）	茨木 次夫
消える「ふるさと」の庶民信仰 －梶山に在った地蔵講－（第6号より再録）	立山 重全
虚文（地獄裁判）	指宿 義正
『西南戦争』の『西南』の呼称の由来について	大田 六男
鹿児島藩元和五年（一六一九）の上知令解釈についての疑問	仮屋 睦男
あるべき姿か、わが学び舎	福田 新一
みまたん 昔話 四〇一一年の証文	有川 龍次
「昭和は遠くなりけり」	尾屋家 則子
酒場にて	浦本 啓次郎
高齢者講習のひとつま	大田 六男
霧島山	松崎 行夫
お父さん	大田 六男
贖罪の果てに	浦本 啓次郎
創作物語「がぐれの声」	作：比江嶋 哲 画：二宮 勝憲
ふるさとみまた36号を読んで	浦本 啓次郎
短歌十首	小牧 照子
短歌十首 花を詠む／春の陽うけて	三浦 好子
短歌十二首	福田 新一
短歌十首	西畑 ヨシ子
短歌五首	栗畑 洋子
短歌五首	栗畑 光圀

○第38号：令和2年11月1日発行

戦中の生活から	松崎 行夫
長崎における被爆の記憶（第6号より再録）	中原 信夫
内之木場地区の点灯と都城盆地の電気由来（第20号より再録）	最上川 明
海戸用水路の取り入れ口（第18号より再録）	茨木 次夫
みまた歴史散歩（平成十三年発行『みまた歴史散歩』より転載）	桑畑 初也
「またね!？」	尾屋家 則子
破天荒な憎めぬ親父の思い出	福田 新一
森鷗外の遺書	浦本 啓次郎

消えた蒋介石からの手紙	尾屋家 則子
独り言	大田 六男
すみれの花咲く頃	浦本 啓次郎
短歌 みちのくの旅／つつがなく	三浦 好子
短歌十五首	福田 新一
短歌 八十六歳となりて	栞畑 光圀
短歌 ふる里	栞畑 洋子
短歌十首	小牧 照子
短歌十首	西畑 ヨシ子
短歌 父を想う歌	大脇 美由紀

○第39号：令和3年11月1日発行

三股の木炭製造	藤永 伸
三股町の史跡の保存について	鎌田 淳一郎
三股村長田国民学校昭和十七年度の学校日誌を見る	黒木 広志
『広報みまた』から三股の歴史を振り返る	比江嶋 哲
「大蛇の来訪」	尾屋家 則子
「竹に雀」	尾屋家 則子
いとこ会「IGM」の思い出	福田 新一
いざ初任地高千穂高校への出発	迫田 次郎
ライスカレー考	浦本 啓次郎
短歌五首「健康第一」	栞畑 光圀
短歌五首「父母の思い出」	栞畑 洋子
短歌十首「無人駅」	上門 典子
短歌十首	小牧 照子
短歌十首	土井 恵子
短歌十首	西畑 ヨシ子
短歌十首「コロナ禍を詠む」	三浦 好子
短歌十八首	福田 新一
短歌五首「母の事」	大脇 美由紀
三股町刊行物のご案内	三股町教育委員会

○第40号：令和5年3月31日発行

講演要旨「三島通庸と桂久武－幕末維新期の三股と都城－」	山下 真一
樺山と樺山氏	米澤 英昭
史料にみる諸国巡見使の動向について	黒木 広志
江戸時代の格差を考える	仮屋 睦男
地形図でたどる三股の近代史	藤永 伸
三股町の山に登る	鎌田 淳一郎
三島通庸という男	比江嶋 哲
『石が語るふるさと』から三股を見直す	比江嶋 哲
三股に伝わる民話について	比江嶋 哲
脇差三本	蓬原 正三
「何もしない」という選択	尾屋家 則子
「好きな言葉」	尾屋家 則子

母を語る	尾屋家 則子
経験が生かされた立派な対応	有野 富子
懐かしき少年時代	福田 新一
宮崎東高校への転勤	迫田 次郎
小林高校への転勤	迫田 次郎
新聞投稿でふりかえる三股町	板谷 麻生
ようこそミマタへ	ハイン ミ グエン
コメ（喫茶）でひとりごと	渡邊 茉衣
思い出	渡邊 ヨシ
明るく 楽しく 笑って 元気	江口 正人
長田の漆黒の闇に遊んだ一九五〇年代	津崎 忠文
戦後戦勝国アメリカが敗戦国日本に見習ったこと	大島 國壯
地球温暖化は人類種絶滅を知らせる警鐘だ	大島 國壯
菊葉会賛歌	浦本 啓次郎
漱石の背比べ	浦本 啓次郎
三つ股の矛	甲羅 貴裕
短歌五首「米寿となりて」	栗畑 光圀
短歌五首「今が一番」	栗畑 洋子
短歌十首「花」	上門 典子
短歌五首	小牧 照子
短歌五首「空色の卵」	土井 恵子
短歌五首「伯母との思い出」	西畑 ヨシ子
短歌五首「平和なればこそ」	黒木 文子
短歌十首「ウクライナに寄せて」	三浦 好子
短歌十首「春の兆し」	三浦 好子
短歌二十首	福田 新一
短歌五首「入院して思うこと」	原田 恵津子
短歌五首「回顧」	長友 喜八
川柳三句	畠中 道己
小学生投稿「ふゆやすみ」	黒木 陽翔
小学生投稿「ふゆやすみ」	黒木 汐梨
小学生投稿「ふゆやすみ」	甲斐 らら
小学生投稿「ふゆやすみ」	富岡 優乃
『ふるさとみまた』創刊号～第39号 目次一覧	三股郷土史研究会
『ふるさとみまた』在庫・価格表	三股郷土史研究会